千代田キャンパス周辺住民の参加・参画の機会づくりを通した まちづくり活動の提案

生田　尚志　専任講師
（社会情報学部　社会情報学科　環境情報学専攻）

１．はじめに

本プロジェクトは、2023 年度ならびに 2024 年度の 2 か年度にわたって実施された地域連携プロジェクトである番町・九段のまちづくりに関する活動を、部分的に引き継ぐかたちで実施しました。千代田キャンパスの周辺地域である番町地域および九段地域では、分譲マンションの建設が複数件進んでおり、両地域に新規に流入した住民が増加しています。一方で、両地域で新たに住民となった方々と、両地域に住み続けている方々との交流機会の不足という課題や、地域として住民の自発的なまちづくりを継続するうえでは、新たな住民の方々が活動に参加・参画することが望ましい状況となっています。

そこで、本プロジェクトでは、過去 2 か年度の活動内容や勉強会の内容を踏まえながら、過去の活動における成果のひとつである「番九（番町・九段）クリスマスマルシェ」を中心として、地域密着型の活動として継続していくことを目標としました。今年度（2025 年度）は、これまでの活動内容の振り返りを行ったうえで、千代田キャンパス周辺の地域組織や団体、商店、そして住民の方々との関係構築から始めることとし、今年度の最終的な成果として「番九クリスマスマルシェ」の開催を目指すこととしました。

また、2024 年度のマルシェ開催時に発生音に対して近隣住民から指摘を受けたことへの対応と、活動自体をより地域に根づいたものへと変容させる目的から、地域外から演者等の招致は行わず、番町・九段地域に居住する方や、過去に地区内で活動された経歴がある方を出店者として招く計画としました。

２．活動内容

上記した活動の目的や方針を踏まえて、大きく以下の３点を実施しました。

１）プロジェクトに関する定期的な打合せの実施

過去 2 か年度の活動を経て構築された地域内での関係性や、定期的な行事として認識され始めていた「番九クリスマスマルシェ」の開催を引き継ぐことを前提として、開催に向けた打合せを 2025 年 6 月以降、12 月のマルシェ開催まで複数回実施しました。打合せでは、マルシェを開催する本来の目的や、参加者・来場者として想定するターゲットを再確認する段階から協議を重ねました。

協議の体制として、前年度までのプロジェクトで事務局を担当した組織の代表者に加えて、番町地域を拠点として子どもたちが参加するイベントの企画・運営や、大学生を含む若者および学生団体の地域活動支援、児童発達支援等に取り組む一般社団法人の代表者を迎え入れました。

２）地域組織および地域住民を交えた意見交換の実施

今年度の「番九クリスマスマルシェ」について、開催を検討している状況の共有を兼ねた機会として、番町地域および九段地域の町会・商店会の会長などの地域組織の代表者を交えた意見交換を実施しました。町会等の地域組織が主催する時節毎の催し物の状況や、マンションの建設で流入した新規住民とのコミュニケーションの状況などを伺い、マルシェの実施方針を定めるうえでの参考としました。

その過程で、子育て世代が多く在住している状況を確認し、子どもの参加・参画を軸とした催し物の開催を検討しました。結果として、今年度もマルシェという形態を継続しつつ、出店者については地域住民を中心とした構成とする方針を定め、開催に向けて検討を進めました。

３）「番九クリスマスマルシェ 2025」の実施

2025 年 12 月 7 日に、2023 年度および 2024 年度の開催実績を継承して「番九クリスマスマルシェ」を開催しました。今回は開催場所を変更し、大妻女子大学・図書館棟の 1 階屋外および屋内ロビー部分にて開催しました。過去 2 か年度は大学 E・F 棟と大学 H 棟の間にある道路を使用していました。しかし、冬季屋外での開催における気温および強風の課題や、2024 年度に寄せられた発生音に対する指摘に対応するとともに、公道で開催することの意義を再検討した結果、今年度は大学敷地内での開催を検討し、最終的に図書館棟を使用した開催に至りました。

当日の出店数は計 4 店舗と、都内で大規模に開かれるマルシェと比較すると小規模での開催でしたが、地域に縁のある方が出店されたことで、番町・九段地域に関わる多くの方が来場し、交流する機会となりました。来場者からは「私も来年出店してみたい」という声が出るなど、地域住民を中心とした地域密着型の活動として実施することの効果を確認でき、今後の活動を検討する上での基盤となる成果が得られました。また、当日の準備や、開催を告知するビラを持って近隣で広報する役割を学生が担い、出店者の皆様ともコミュニケーションをとるなど、実践する現場だからこその学びを得る機会となりました。



当日の準備の様子



開催中の様子１



開催中の様子２

３．今年度（2025 年度）の振り返りと今後の展望

マルシェ開催後に、運営に関わったメンバーと出店者による活動内容の振り返りを行いました。地域に関わりのある方々に絞って出店してもらうことの意義をお互いに確認し、番町・九段地域に根づいた活動として重要な方針であることを確認しました。

加えて、今年度を受けた改善点について意見交換を行いました。実施までのスケジュールがタイトであり、出店者の募集や活動の告知が十分に行えなかったことや、什器を外部レンタルする必要が生じて費用が高額となったことなど、持続的な開催に向けた課題を整理しました。また、多くの来場者に恵まれた背景として、地域の中心的な空間である東郷公園の近傍で開催できたこと、企画当初は把握していなかった同日開催の地域行事後に立ち寄る方が多くいたこと、天候に恵まれたことなど、偶然性のある要素も含めてさまざまな要因があることを認識しました。

そして、来年度に向けた方針として基本的にはマルシェの形態を継続するとともに、企画参加者や出店者の募集の早期化、町会行事との同時開催を含めた開催時期の検討、出店者増を見据えた開催候補地の検討、出店以外での子どもの関わり方の提供などがアイデアとして共有されました。また、コロナ禍により、学生がまちづくりや地域活動を主体的に運営していくノウハウが学年間で途切れてしまっており、それ以降、学生が企画段階から主体的に参画できる機会が縮小したままである状況を確認しました。

以上を踏まえ、引き続き千代田キャンパス周辺の地域の方々にご協力をいただきながら、大学教育としての学生への機会提供や、地域における大学のあり方についてモデルとなる姿を検討していきます。単年ごとの計画ではなく、長期の積み重ねによって地域に根づいた活動となるよう継続していく方針です。